

(4) 東山動植物園の目標

人と自然をつなぐ懸け橋へ

東山動植物園は、自然と乖離してしまった社会環境の中で暮らす都市の住人の渴きを癒すところであり、行けば、理屈なく楽しく、ホッとする、憩いの場であればなりません。そして、結果として、自然の素晴らしさや大切さを学習し、さらに、それが、生物多様性の保全やサステイナブル・フューチャー*につながる場とならなければなりません。したがって、東山動植物園が「人と自然をつなぐ懸け橋」に生まれ変わることを目標とします。

* サステイナブル・フューチャー

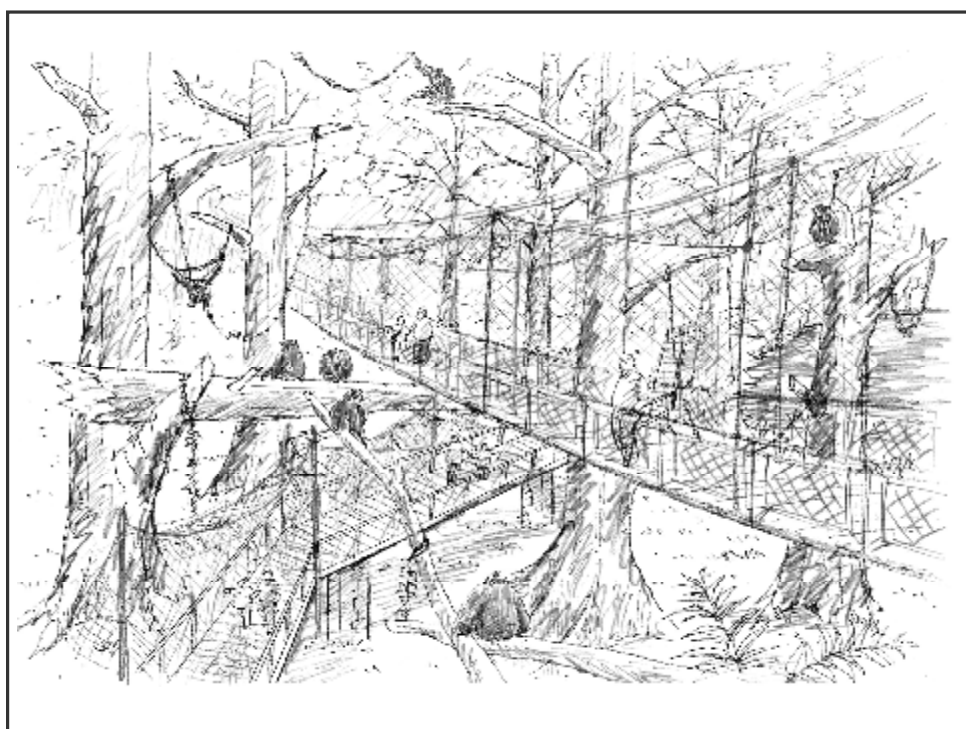
持続可能な未来。現在の地球環境が、今の世代だけのためにあるのではないことから、持続可能な地球環境を次の世代に受け継いでいくこと。

3 構想の実現に向けて

東山動植物園が「人と自然をつなぐ懸け橋」に生まれ変わるためには、施設の改修だけでは不十分です。ハード面だけでなく、ソフト面でも改革を進めていきます。

参考イメージ <キャノピーウォーク>

このイラストは、東山動植物園再生検討委員会の提言から引用したものです。



【キャノピーウォーク】

もともと熱帯雨林の樹冠 (canopy) 部分を調査するために設けられた、木々の間に張り渡したつり橋状の渡り廊下のこと。地上より、はるか上に設置されているため鳥と同じ目線で森を観察できる。



【参考】マレーシア・コタキナバルのキャノピーウォーク

東山動植物園再生プラン基本構想



環境首都なごやを目指すとともに、人・物・情報・資本が国内外から大交流するまちを目指す本市は、国内最大級の410ヘクタールの「なごや東山の森」に包まれ、昭和12年の開園以来、市民の皆様を始め多くの方々に親しまれてきた東山動植物園の再生を検討してきました。

このたび「東山動植物園再生検討委員会」からの提言をもとに「東山動植物園再生プラン基本構想」を取りまとめました。

名古屋市

東山動植物園再生プラン基本構想に関するお問い合わせは

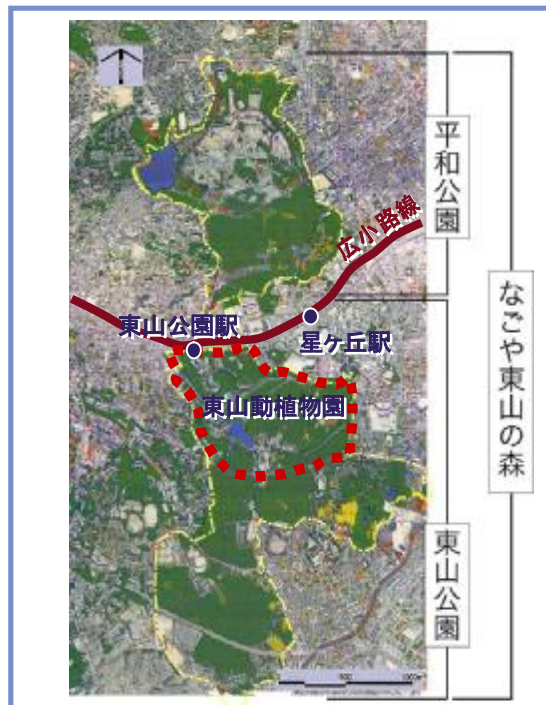
名古屋市 東山総合公園 再生推進室 TEL (052) 782-2111 FAX (052) 782-2140
Eメール 2220@rd.city.nagoya.lg.jp

*この資料は、「東山動植物園再生プラン基本構想」の概要版となっています。
全文は、名古屋市のホームページ (<http://www.city.nagoya.jp/>) でご覧いただけます。

1 東山動植物園の再生プランとは

東山動植物園の再生は、動植物園の使命の変化などを基礎として、環境と大交流の融合する舞台を目指すものです。したがって、東山動植物園の単なる改築計画ではなく、東山動植物園の再生（＝生まれ変わり）を核として、「なごや東山の森」の森づくりを行うとともに、その周辺地区のまちづくりや活性化なども目指すものです。

なお、開園80周年となる平成28年度に動植物園区域の再生完了を目指しています。



2 東山動植物園の再生

(1) 基本理念(動植物園そのものの存在意義です。)

生命(いのち)をつなぐ
～ 持続可能な地球環境を次世代に～

(2) 東山動植物園の2つの使命

基本理念及び東山動植物園を取り巻く社会環境、時代背景などから導き出される東山動植物園の果たすべき使命は次の2つに集約されます。市民と協働して、この2つの使命を果たします。

- | | |
|------------|--|
| 環境 | なごや東山の森づくりや、愛・地球博の経験を活かし、人間と自然の関係を感じられる空間として、人と自然をつなぐ場となる。 |
| 大交流 | 世界との大交流の拠点になるとともに、市民の心のふるさととして、人と人をつなぐ場となる。 |

(3) 6つの再生の基本方針

市民のための動植物園ですから、動植物を通じて、市民の皆様に、いかに楽しんでいただけるか、いかに喜んでいただけるか、いかに感動していただけるかを最優先に考えて再生します。

ア「見るもの」と「見られるもの」の垣根の除去

「見る」人間と「見られる」動物の垣根を取り払い、来園するだけで自然とつながっていることを実感でき、生き物と空間を共有していることを体感できる動植物園とします。

イ 希少動物の「保護」と「増殖」への貢献

動物は、動物園のものではなく、市民の大事な財産です。地球上の動物を守って、次の世代に伝える責任を果たすことのできる動物園を目指します。

ウ「娯楽」と「学習」の両立

動植物園は、理屈なく楽しく、ホッとする、憩いの場でなければなりません。なぜなら、楽しくなければ人は来ないし、人が来なければ、どんな素晴らしいメッセージを発信しても伝わらないからです。動植物園の主役である子どもたちはもとより、大人にとっても、楽しくためになる、感動を与えられる動植物園を目指します。

エ「動物園」と「植物園」の融合

自然は、動物と植物の双方があって初めて成立します。広大な動物園と植物園が近接し、かつ、動物園と植物園が同じ組織にあって双方の専門家が協力できる利点を十分に生かして、自然本来の姿を実感できる動植物園とします。

オ「東山の森」と「動植物園」の一体的活用

動植物園の再生を核として、動植物園と東山の森の相乗効果が図れるよう東山の森全体を活用します。

カ「市民」と「行政」の協働

市民(民間企業を含みます)と行政が連携、協働して運営することにより、市民の皆様が「自分たちの動植物園」と実感できる動植物園を目指します。